

第12号 (平成31年3月号)

全国自立援助ホーム協議会 たより

編集者

新井 秀親 (夢舞台)

松木 良介 (経堂憩いの家)

大橋 達也 (吾が家)

野原 知子 (マルコの家)

発行日：平成31年3月25日

新企画！

「ホーム訪問 第1弾～水戸の旅～」

「吾が家」訪問について

みずきの家 (神奈川県)

ホーム長 中山俊介

今号内容

1 ページ

新企画

「ホーム訪問
第1弾 水戸の旅」

2-3 ページ

全国自立援助ホーム
協議会
第25回記念愛知・
名古屋大会報告

4-5 ページ

社会的養護自立支援
事業と就学者自立生
活援助事業

6-7 ページ

「クラウドファン
ディングへの挑戦」

8 ページ

協議会・広報委員会
からのお知らせ

去る2月25日、主として北関東地区の自立援助ホーム職員有志15名で、茨城県にある自立援助ホーム「吾が家」と、同一の社会福祉法人(栄寿会)運営の知的障害者施設「若葉園」を見学させていただきました。私の所属する

「みずきの家」(女子6名)は、南関東の神奈川県南足柄市に位置しますが、昨年6月にホーム長に就任したばかりであり、「吾が家」は同じく女子施設であることから、職務の参考になればとの御配慮で、「夢舞台」の新井ホーム長からお声を掛けていただいたものです。

「吾が家」は、広々とした敷地に立地していることや、利用者さんには隣接する「若葉園」での作業にも参加してもらいながら就労の手助けをするなど、温かい関わりとともに、様々なきめ細かい支援をされており、とても良い刺激を受けました。送迎バス車内での会話、見学後に実施された情報交換会や夜の懇親会では、それぞれのホームの現状や利用者さんの様子、対応の工夫について有用な情報や、自立援助ホーム職員としての一体感が得られたことが大きな収穫であり、女子施設が抱える問題は共通していることも改めて理解できました。例えば、「無断外泊をして所在が分からない利用者さんに対しては、本人にラインで、返事がなければ警察に届けを出す旨を伝えると、すぐに返事が来ますよね。」などと話をうかがいましたが、まさにその日の夜中に、みずきの家でも一人の利用者さんがいつの間にかホームを抜け出して、翌朝になっても帰って来ませんでした。

「無事ですか？ 心配なので、返信がなければ警察に届けます。」とのメールを送信したところ、2分後に、無事なので今日は必ず帰宅するとの返事がありました(笑)。

南足柄からは、途中特急列車を使っても約3時間の距離でしたが、このように実務に即した貴重な研修の機会になったと思います。

水戸駅からの送迎、見学、情報交換会、水戸市内の散策、懇親会など、きめ細かく手配、歓迎をしていただきました

「吾が家」の大橋ホーム長とスタッフの方々に、改めて御礼を申し上げます。



(吾が家 外観)



全国自立援助ホーム協議会 第25回記念 愛知・名古屋大会

月日：平成30年11月5日（月）～ 6日（火）

会場：キャッスルプラザ

次第：

1日目

・開会式

○主催者挨拶 ○来賓紹介 ○感謝状贈呈

・行政説明

（厚生労働省こども家庭局 家庭福祉課 社会的養護専門官 河尻 恵氏）

・基調講演『これからの自立援助ホームに期待するもの』

（関西大学 人間健康学部 教授 山懸 文治氏）

・分科会

A) 「私の本音！！～若者が語る就学支援と高齢児支援の実際と未来へ～」

B) 「退居者支援」

C) 「心の治療援助＝かすれた声によりそうこととは＝」

D) 「人材確保対策」

E) 「就労支援の具体的な取り組みについて

～成功事例、失敗事例から学ぶ～

・交流会

2日目

・記念講演 『今を生きる力』

（愛知淑徳大学心理学部・大学院教授 心理医療科学研究所

クリニック 心療内科・精神科心理臨床相談室 古井 景氏）

・閉会式



会長挨拶



次回（第26回）全国大会
開催地は「横浜市」です。
湘南つばさの家
前川ホーム長 挨拶

5つの分科会の内、A、D、Eの分科会について感想を紹介します。

分科会A

「私の本音！！

～若者が語る就学支援と高齢児支援の実際と未来へ～

私が参加した分科会Aは、その題名のとおり実際に自立援助ホームを利用していた若者と、その若者を支援された鳥取フレンドの内藤さんと丸亀おひさま荘の合木さんの話を聞いた。たくさんの方が聞いている中で自分のことを飾らずに話すことができる若者二人の人間性に感心し、その人間性を引き出された内藤さんと合木さんの関わりも、同じ仕事をしている者として感服させられた。

(憩いの家 松木)



分科会D

「人材確保対策」

東京都の取り組みを紹介してもらいました。都内の施設職員で「人材対策委員会」を組織し、確保・定着・育成の標準化を図っています。NPO 法人チャイボラ（児童養護施設等への就職応援団体）とも協働して、施設見学会開催など学生へアプローチしているそうです。ホーム独自で出来る事は、

- ①求人に関する情報を知る
- ②ホームページの整備
- ③職場環境を見直す事です。

待っていても人は来ない、積極的な求人活動が必須であると感じました。

(吾が家 大橋)

分科会E

「就労支援の具体的取り組みについて ～成功事例、失敗事例から学ぶ～」

ワールド・カフェの原理を用いた事例検討。小グループに分かれ、事例について各々が意見を出し合いました。オープンな雰囲気の中で自由に出された意見を大きな模造紙に書き込んで行くと、平面だった白い模造紙が、まるで呼吸をしている生き物のように見えてくるから不思議です。

個人の考え方や意見を批判しない、お互いの個性が交錯して新しい発見が生まれる、という自立援助ホームらしさを実感する分科会でした。

(マルコの家 野原)



「社会的養護自立支援事業」について

昨今の社会状況、社会的養護の実情を鑑み、新たな社会的養育のあり方として平成 29 年 3 月 31 日厚生労働省より「社会的養護自立支援事業実施要綱」が出されたことは、皆様、既にご存知かと思えます。

要綱には「社会的養護自立支援事業」と「就学者自立生活援助事業」が新たに設けられました。そこで実際に制度を利用したホームの事例をご紹介します。

「社会的養護自立支援事業の実践」

社会的養護自立支援事業

の取り組みについて

マラナ・タ ハウス（東京都） 指導員 中村 美紀

マラナ・タ ハウスでは 2018 年 8 月に 20 歳を迎えた子が初めて利用しました。在籍期間はその時点で過去最高の 34 ヶ月です。現在まで転職を 9 回繰り返し、最長の就労継続期間は 9 か月です。精神的にとっても弱く、生活もだらしく、10 言ったことが 3 くらいしか出来ないような子です。たまたま上手く行っていた職場でも上司が変わったりすることで不安定になり辞めることがありました。辞めた後は必ず暫くホームに引き籠ることが続きました。多い時は 45 万あった貯金も 20 歳迎えた時はほぼ 0 の状態でした。そこで 20 歳で退居させることは難しいと判断をして半年前くらいから児相と話し合いを行い、さらに 1 年様子を見ることにしました。20 歳を迎えた時から現在までの転職回数は 3 回です。転職のたびに自分のやりたい事が変わり、挫折の繰り返しで今やっと自分の将来へ向き合う決心ができたかと思っています。時間を掛け色々な経験をともにして話し合ってきた結果だと思っています。2 月からは教習所にも通い始めさらに自立する自信が付いて来ました。この事業が出来る前にこの子が 20 歳を迎えていたらと思うとゾッとしてしまいます。本当にこの事業が出来たお陰でより長期間に渡り生活を共にでき関係性を構築できることは良かったと思っています。全ての子に当てはまるわけではないですが。

マラナ・タ ハウス全体の平均在籍期間は約 8 ヶ月です。社会的養護自立支援事業を使わざる得ない子は限られるかと思えます。しかし今までだと退居しなければならなかった、本来的にはもう少し長く見たいと感じていた子が見れることが最大効果かと思えます。

この子が言葉を発しなくても表情や行動で気持ちが読み取れる様になったと感じる部分もあり、感情をストレートに言い合え、更なるステップアップに繋げていけると実感をしています。社会性が乏しく、自分発信がなかなか出来ずに 20 歳を迎え、社会的養護自立支援事業の期間中で率先力を身につけられた事は本当に良かったです。

「就学者自立生活援助事業」

樹の下ホーム(埼玉県) 志村 亜希子

年齢 (2月時点)	学 校	実 施 期 間	
21 歳	保育委託訓練校 2年コース	平成 29 年 9 月～平成 31 年 3 月末	埼玉県
20 歳	ヘアメイク専門学校 3年コース	平成 31 年 1 月～平成 32 年 3 月末	他県

就学者自立生活援助事業の取り組みについて

樹の下ホームでは、1月現在で就学者自立生活援助事業を利用している専門学校生が2人います。1人目は身体的虐待で高3の2学期に入居、すでに内定していた企業へ卒業後に就労しましたが、ハードワークで身体を壊し、10ヵ月で離職しました。それは、児童福祉法改正案が発表された頃でもありました。その後、ハローワークへ通いながら就活しつつ、家庭にいた頃に密かに抱いていた保育士への夢も含めて相談しました。家庭にいた頃は経済的搾取も受けており、進学を断念した子です。児童相談所とも相談をして、本人の意思決定の上、委託訓練校で保育の2年コースへの入学が無事に決まりました。

2人目は他県からの割愛で16歳の時に入居。中3で不登校、高校進学するもまた不登校になり、埼玉県に来てからも仕事が定着しない時期がしばらく続きました。歌手への夢にも挑戦、レッスンやオーディションも受けました。将来について幾度も話し合いをしました。そんな中、社会的養護の支援団体と企業が、ヘアメイク専門学校とタイアップをして新しい奨学金プログラムが立ち上がりました。メイクが好きな本人へ提案をして見学会などにも参加、ホームとしては埼玉県と他県へ本事業の利用を見据えて、卒業までの支援計画を協議、子どもへ制度の説明、支援団体との連携も図りました。最終的に、本人の意思決定を確認して入学に至りました。今年の1月に20歳を過ぎてから、当事業の決定となりました。支援計画やその必要性の御理解を頂きながらも、実施する自治体間の問題、決定の遅れにより子どもの不安が課題として残りましたが、卒業まであと1年強です。2件の事例、とくに2人目は他県からの割愛で異例なケースでしたが、夫々のケースに寄り添い話し合いを大切にしながら、本人の意思決定を尊重してきました。各関係機関と連携をしながら確認を行っていくことはとても重要です。

樹の下ホームは、開設当初から就学と就労の子が混在しています。生活スタイルも違います。それは学生同士であっても、就労組の中でも起こっています。互いに刺激も受けています。子ども達は、生活の場面で、自分たちの進路を決める選択肢の一部を目の前で見ています。明日も見えなかった子達が「夢」を持つのは、奇跡のようなことかも知れません。ですが子ども達の幸せを願い、支援の可能性を探ることは不可欠だと考えます。全国で160を超えるホームがありますが、他ホームの方々に相談やご指導も受けてまいりました。ありがたいです。

樹の下ホームでの事例が、少しでもご参考になればと願っております。

「クラウドファンディングへの挑戦」

みんなのいえ（千葉県）小倉 淳

クラウドファンディングへの挑戦

『自立援助ホームで暮らす若者たちに、「明日への活力」を届けたい』そんなキャッチフレーズで、クラウドファンディングに挑戦しようと思いついた切掛けは、「みんなのいえ」で暮らす若者たちに支援の行き詰まりを感じたこと、子どもに



「がんばろう」と言うならば私たち大人の方も新しいことに挑戦をして一緒に出来ることを考えてみようと思ったからです。みんなのいえは、開設当初から子どもたちに、規則という規則を設けずきています。10代後半の若者たちに対し、規則やルールで縛るのではなく、自らが内発的に行動したことに責任を感じてもらい、人との距離感を図ることの難しさを実感して欲しいため、敢えて規則は設けず、子どもたちの自主性、主体性を尊重しながら、子どもとの会話や関係性を大切にしています。とは言っても、社会経験に乏しい彼らが一人、二人と入居する中、人との距離感だとか、社会経験だとか以前に、心と身体のアンバランスさが際立ち子ども自ら新たな居場所（趣味や職場、友人など）探しを求めることは難しく、その気運もない状態が長くある中で、彼らが外に気持ちを向くための経験の場を創り出し、明日へ向かうための好奇心や達成感、感動を抱けるような場を私たち大人も一緒になって



挑戦してみようと思えるようになりました。つまりは、大人の本気をみせるということです。「クラウドファンディングでお金が集まるわけない」とか、「どうせ」という否定的な発言が目立つ若者たちに、「大人たちは本

気だよ」と繰り返し伝え始めたプロジェクトは、開始してすぐに大きな反響があり、支援くださった方からの応援メッセージには、子どももスタッフも励みになるような言葉がたくさん寄せられました。支援金の募集期間だった一カ月は瞬く間に過ぎ、当初の目標額を大幅に超えての達成となりました。この結果に何よりも驚いたのは入居している子どもたち、若者たちでした。本気でやりたいことに挑戦すること、大人の必死な姿が少しは子どもた

ちにも届いたこと、「どうせ」ではなく、「やればできる」という想いを実現できたことが、リアルに実感できた瞬間だったのではないのでしょうか。肝心のプロジェクトのその後ですが、車の免許を取得するため免許合宿に旅立った子、北海道への一人旅で初めて乗る飛行機や慣れない土地にドキドキした子、真冬のキャンプファイヤーを大勢の参加者と実現してみたり、富士山のふもとでパラグライダーをしたりと、子どもたちの「やりたい」を見事に叶えることが出来たプロジェクトとなりました。

人は誰しも、自分の内側から湧いて出てきた前向きな気持ちを発言したり実現したり、具現化するためには、自身の内側にエネルギーが必要です。それを実行する過程にはストレスや疲れが伴います。その前向きな気持ちを育むために、私たちスタッフに何が出来るのかを改めて考えることが出来ました。

私たち大人が、子どもたちによく言ってしまいがちな、「〇〇した方がいいよ」という考え方は、人生の少し先を歩いている大人として「正しくありたい」と思うところからくるのではないのでしょうか。だから、つつい失敗がみえる子どもに対して、過剰に注意をしたり言いたくなってしまうもの。つまりは「転ばぬ先の杖」ということですが、子どもの失敗を未然に防止するだけでは、子どもの主体性や積極性は育めません。大人が子どもの前で弱さを見せたり、泥臭くあったり、楽しんだり、積極的であったりする姿をみせることこそが入居する子どもたち、若者たちにとって最も効果的な支援になり得ることだと今回のクラウドファンディングを通し改めて感じました。今後も、みんなのいえがみんなのいえらしくあるために、色々なことに挑戦していきたいと思っています。

※クラウドファンディングについて※



不特定多数の人からインターネットを介して資金を集めること。また、資金の必要な人と提供者を結びつける仕組みやインターネットの仲介サービスを表す名称としても使われる。クラウド crowd（群衆）とファンド fund（資金）を組み合わせた造語で、略称 CF。

最も一般的な方法としては、資金提供を受けたい人が仲介専門のウェブサイトを通じて自分の企画をプレゼンテーションする。それに対し、出資してもよいという人の数が目標に達すると、提供された資金が拠出され、実際にプロジェクトが実行される。アメリカの調査会社の予測では、2013年のクラウドファンディングの世界市場は50億ドルを超えると見込まれている。

（日本大百科全書より抜粋）

【第12回 全国自立援助ホーム長研修会・総会のお知らせ】

- *開催日：平成31年4月22日（月）～4月23日（火）
（22日（月）ホーム長研修会 23日（火）総会）
- *場所：名古屋市 名鉄ニューグランドホテル
- *宿泊の手配は各自でお願い致します。

【ご注意】

※今回のホーム長研修会につきましては
処遇改善加算に必要な3つのテーマのうち2テーマを行ないます。
まだ処遇改善加算（ⅴ）の要件を満たしていないホーム長におかれましては
4/22の午前中に残りの1テーマを行う予定となっております。
午前中の研修は別途費用がかかりますのでご了承ください。
3月21日に全国自立援助ホーム協議会より、開催要項及び申し込みについての
案内が会員メールで送信されております。申し込み期限は4月10日です。
こちらも併せてご確認ください。

ホームに1冊 必携「全国ホームガイド」発売中！



全国161のホーム概要が1冊になった
「全国ホームガイド」最新版（2018年11月発行）
購入希望の方は、全国自立援助ホーム協議会事務局まで
お問い合わせ下さい。

1冊 1,000円

【編集後記】

広報委員長：夢舞台 新井 秀親

先日、茨城県下にある自立援助ホーム『吾が家』を訪問する機会を得ました。JR水戸駅まで車でお出迎えしていただき、その道中にかの有名な日本三名園の一つ『偕楽園』の横を通り過ぎ、美しい梅が咲き誇りそうな気配の中、心地良い気持ちになりホームに到着。

都道府県における社会的養育推進計画の策定が求められている中、自立援助ホームはその機能と役割を明確にして、社会的養育の大切な社会的資源の一つとして位置付けられ、社会に広く認知されるように、汗をかかなければなりません。水戸と言えば、あの水戸の黄門様か…。

まさに、『この紋所が目に入らぬか〜！』といきたいものです。（笑）